

コラム

「今年の十大ニュースを考える」

客員研究員 新井 光雄*

年末に個人的な恒例の「行事」がある。なにそう大仰なことではない。今年の大きなニュースの点検である。分り易く言えば十大ニュースを自分なりに考えるにすぎない。それも新聞に頼ってのことだ。今年も読売新聞が 21 日朝刊で、国内十大ニュースの「投票結果」を掲載している。個人的な予想と重なるものが多いが、ずれるものもあってなかなか興味深い。新年を目前にして過去を振り返ってどうするのか、とも言える一方で、あれこれ反省でもないが、考えてみるのが来年に繋がる場所もあって、悪くない作業だと思っている。でその国内十大ニュースだが、ざっと簡略に書くとこうなる。①尖閣問題 ②日本人ノーベル賞受賞 ③口蹄疫問題 ④暑い夏 ⑤鳩山退陣・菅誕生 ⑥「はやぶさ」帰還 ⑦参院選・民主大敗 ⑧相撲界の野球賭博 ⑨大阪特捜・証拠改ざん問題 ⑩サッカーW杯決勝トーナメント進出——となる。

個人的に当たったのは半分程度だけであり、結果には視野を広げてもらった。このズレが面白い。④になっているあの 113 年間で最も暑かった夏など、今の気候のなかではすっかり忘れてしまっていて、そう言えば、今年の夏は異常な暑さだったとようやく思い出す始末。喉元過ぎれば熱さを忘れ、ということを実感した。⑥の「はやぶさ帰還」もそうで、ニュースとして承知していたが、関心の度合いの問題で、個人的には十大ニュースになるとは予想していなかった。しかし、解説を読み 60 億キロの飛行。月以外の宇宙からの微粒子 1500 個の回収といったことを改めて考えると、なるほど十大ニュース。歴史的な視点にたつとこれがトップであってもよかったのでは、とさえ思えてきた。

こうした思いは個人、個人で様々なのだろうが、トップの「尖閣問題」が有効投票の 9 割に迫る 87%に達しているところが注目点だろう。個人的には今年はこれに尽きるというように思っていたので大いに納得した。読者の多くが「国」というものを意識し、またその存在に多少の「不安」を感じた結果と想像する。安穏な生活の根底のところでは微震が発生したという感覚だろうか。

一方でそういうものか、と思えたのは経済問題が十位内には皆無だったことがある。経済問題関連では「日航の会社更生法適用申請」が 13 位でようやく登場してくるほか、経済的ということで「トヨタ大規模リコール」が 26 位。不況に喘ぐ今年だったが、事件・事故のニュースに匹敵するようなニュースは余りなく恒常化してしまっていたということなのかもしれない。慣れとは言えないまでも、そんな感覚といえなくもなかったのだろう。

これは不景気がそれだけに深いともいえるのではないだろうか。ニュース性を失ってきたとも。だとすると深刻だ。

十大ニュースで目立つものにスポーツの分野がある。⑧の「相撲界の野球賭博問題」。それに⑩の「サッカーW杯」。明暗 2 ニュースであり、読者のスポーツへの関心の高さが分る。ニュースというといふ深刻な問題と考えがちだが、確かに明るい軽いともいえるニュースもあっていいはず。

* 地球産業文化研究所理事 元読売新聞編集委員

10 位以下でも多く、14 位に「イチローの 10 年連続 200 安打」があり、15 位に「白鵬の連勝 63 ストップ」さらに 17 位に「朝清龍の引退」、18 位に「バンクーバー五輪でメダル 5 個」。加えて 25 位に「ロッテの五年ぶり優勝」が顔を出す。そして 30 位には「高校野球で興南の春夏制覇」であり、30 位内ではスポーツの占める比率が極めて高い。文句はないが、個人的には少し多すぎという気がしないでもない。

もっとも目下は不況である。明るい側面に目を向けるという気持ちにもなろうというもの。これはこれでいいのかもしれない。ちょっと目を引いたのは 12 位になってはいるが「スカイツリー」だ。まだ完成していないはずだが、その姿が明確になったということで、であろうか。もう一步で 10 位に届いた。これは完成すれば相当なところに行くに違いない。ニュースが一回限りにならないというところが面白い。継続する大ニュースとなるのだろうか。

社会ニュースでは⑨の「大阪特捜部問題」が深刻だが、いわゆる社会問題ということで言えば、11 位の「所在不明 100 歳以上続出」が注目される。現代の社会状況の危うさが否応なく示されている点で突出しているのかもしれない。どこかに無気味さがあった。この社会の無気味さということでは、29 位ではあるが、「大阪の母親による二児放置死亡事件」がある。これも常識を逸脱していて、強烈な印象を残した。この 2 件は社会の底流の変化・変質を意味するところがあり、生活者の立場で受け止めると重くのしかかってくるニュースだったと思える。

むろん、政治問題では首相の交代。民主の参院選大敗などがあり、納得の大ニュースなのだが、どうにも個人的には受け止めようがなく、消化不良といたいところ。

それにしても十大に加えて 30 位までも視野にいれたわけだが、今年もいろいろあったというほかない。明暗、本当に様々なことがあり、それぞれの問題に各個人が反応しつつ生きてきたのだろう。ひとつひとつを見ていくうちに自分の考えも見えてくるところがあるのが興味深い。少なくとも関心の方向が分ってくる。さて、来年。一体どんなことが起きてくるのか。不安が多いが期待もないでもないといったところだ。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp